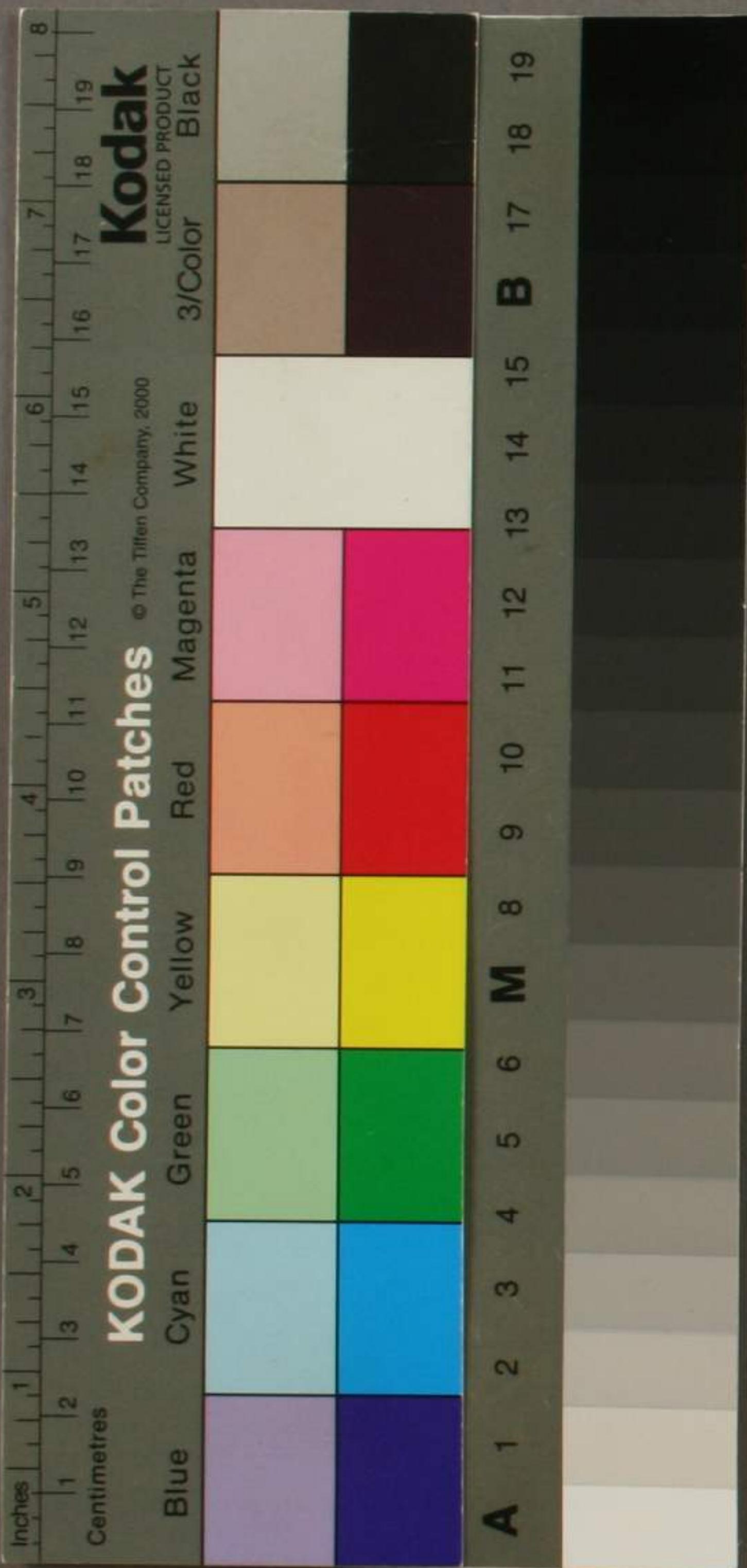


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN

特別
= 5
2550
2

刻白爾天文圖解

地





刻白爾天文圖解卷下

天之書

東都

江漢司馬峻選

人地球ノ上ニ居テ天ヲ仰望ニ天旋テ太地
靜ナリ日月星辰移リテ昼夜ヲナレ三百六
十五日五時一昼夜ヲ二
十四時トス四十九分一時六十
分トス
過テ一年ヲナス四季春夏秋冬アリ寒暖ヲナス
其理ヲ究メントスルニハ恆ニ二十八宿ヲ知ル
アリ天一年ニ一周廻スルヲ見ナリ天旋テ

伊能氏曰
一度里數
二十八里
二分

地旋ズ然ニ天ノ旋ハ是地ノ旋ル也地旋ルトキハ天旋ルが如シ舟ノ行ニ岸ノ移リ旋ニ似タリ是ヲ地轉ノ説ト云然ニ丁晝一夜ヲ爲ハ地球旋轉シテ日向フ所。昼ヲナシ日ニ背ク所。夜ヲナス地球ノ周廻一万零八百里日本里法一度三十里地ノ廻リ三百六十度。

第一圖

圖ノ中心 S、日輪也其外環 A、水星天 B、金星天 C、吾地球天 D、火星天 E、木星天 F、土星天 G、恆星天 H、彗星ノ行環ナリ吾地球一旋轉

日輪黃道
ヲ一日進
ム一度五
十九分八
秒ナリ

レテ天ノ一度ヲ進ミ三百六十五日余ヲ旋轉レテ天ノ三百六十度ヲ地球一周廻シテ一年ヲナス

地球ノ南北ニ樞軸アリ北軸ヲ以テ上トス上下南北両軸ニ傾キアリ一晝夜ヲ一旋轉スル軸ニレテ地球ハ傾テ運轉スルヲ三百六十日余ナリ其環ヲ地球行環ト名ク則黄道ナリ圖ヲ見テ曉ベシ南北樞軸ノ中心ヲ名ケテ極軸ト云其極ノ當ル天ヲ北極南極ト云地球一年ニ一周旋スル軸ヲ黃道軸ト

云^ツテ同^レク此行環ヲ黃道ト名^ク黃道ヨリ南北軸ノ傾キノ隔リヲ二十三度半トス地球ヲ平分シテ其半ヲ赤道ト名ク

日輪吾^カ天ノ中心ニアリテ傾^キノ軸アリ一旋轉スルノ二十五日半ナリ日輪中ニ紋アリ依テ之ヲ測量^{ガル}スト

日輪ノ外天ノ一層^{ソウ}ハ水星ノ運旋スル環也二層ノ天ハ金星ノ運旋スル環ナリ三層ノ天ハ吾地球ノ運旋スル環ナリ四層ノ天ハ火星ノ運旋スル環ナリ五層ノ天ハ木星ノ

運旋スル環ナリ六層ノ天ハ土星ノ運旋スル環ナリ此圍^{カヨ}ヲ吾天ノ日輪天ト名^ク其外天^ヲ恆星天ト呼^{ヨシ}デ吾天内ニ非ズ其高キ^ト思議スベカラズ恆星ト名クル者其象^{カタチ}ヲ變^{ハシム}ゼズ且所^ヲ移^{ウツ}サズ萬古列^{レッ}ヲ失ズ故ニ列星ト名ヅク星皆大小アリ金銀ノ色アリ天漢ノ中啻氣ト名^クル者星ノ象^{ナシ}ナサズ望遠鏡ヲ以窺觀ルニ悉^{コト}ク小星ニシテ際^{カギリ}ナシ層^{ソウ}々ト重リテ地上ノ人肉眼ニ視^ルト雖必吾天ノ五星如キ者ニ非ズ日輪ノ如キ者ナリ故ニ天無數

其究リナレ

日輪ノ外天ヲ旋ル者ハ吾地球及ビ五星ヲ
以テ六ノ惑星ト名ク一星ゴトニ其行疾キト
遅キトアリ地球ノ行アル因テ地上人之ヲ
視テ惑フ天ノ衆星ノ旋リ移ルニ異ナリ故ニ

六惑星ト名ヅク

六惑星ニ副テ旋ル小星アリ之ヲ十小惑星
ト名ヅク其小惑星ナル者ハ地球ノ月ノ如キ
者ニシテ土星ニ小五星アリ本星ヲ圍デ旋
木星ニ小四星アリ同ク本星ヲ圍デ旋ル地

球ヲ圍デ旋ル者ハ月輪ナリ一ノ小惑星ト
ス月吾地球ニ近シ故ニ大ナリ
♀辰星水星ト名ヅク蘭語メルキス
♀太白星金星ト名ク蘭語ヘトエス
●地球土地ト名ヅク蘭語アーレド
♂熒惑星火星ト名ク蘭語マルス
み歳星木星ト名ヅク蘭語ユヰテル
♂鎮星土星ト名ヅク蘭語サーラユルニエス
五星ト地球ハ日輪ヲ圍テ旋轉ス日輪ハ火ノ
元ニシテ五星及地球ハ水ノ元ナリ火水ニ

入ル故ニ動キヤマズ之ヲ天機ト云フ天ハ
氣ト火ト水ニシテ外物ナレ

吾天ノ中心ト呼者ハ何レヲ中央トスベキヤ
夫中心ハ地球及五星ノ旋ル中央ヲ指ベシ
五星ヲ辨ジ知ント欲セバ恆星二十八宿和蘭
宮ト此黃道ノ環ニ係リテ必光芒鮮明ナル
者五星ノ一也水星日輪ニ近シ金星又日輪
近シト雖其環高シ朝ニハ東ニ現レ暮ニハ
西ニ現ル之ヲ霄ノ明星朝ノ明星ト云西洋,
器テレスコビュント云望遠鏡ヲ以テ之ヲ望ミ

視ルニ半月ノ如レ日輪周圍ノ行環所トレテ
高タカレ或ハ卑ヒクレ日輪ト正對スル時ハ滿月ノ
如レ日輪ニ背ク時ハ三日月ノ如レ火土木
三星ハ地球ノ外アリ望遠鏡ヲ以テ火星ヲ
視ルニ小惑星ヲ見ズ惟木星ニ小四星アリ木
星ヲ中心トレテ旋ルト雖行環ニ差ヒアリ
各己レノ行環アリテ木星ノ象滿月ノ如レ星
面中三帶ミスジノ紋アリ圖ノ如レ
土星ニ小五星アリ本星ニ環アリ其環光グンテ
全形橢圓ビックノ如レ圖ヲ見テ知ベシ

金星ハ日輪ノ周圍ヲ運旋スルノ行環二百二十四日十六時四十九分時一時六十分也總テ昼夜二十四金星中心ノ隔ダリハ七百二十四分

第二圖

日輪ハ吾天ノ中心アリ。雖實ハ中心非ズ皆傾ケリ。又五星及地球ノ行環モ橢圓ナリ。天ノ中心ハAナリ。日輪ノ傾キハSナリ。B C D Eハ五星及地球ノ運旋スル環也。地球トスDニ至ルヲ夏至トスCノ所ニ至ルヲ秋分トスEニ至ルヲ冬至トスDニ至ルノ時ヲ春分不移カ如シ。

トスBDノ一線ヲ日輪ノ留トマリト名ヅク

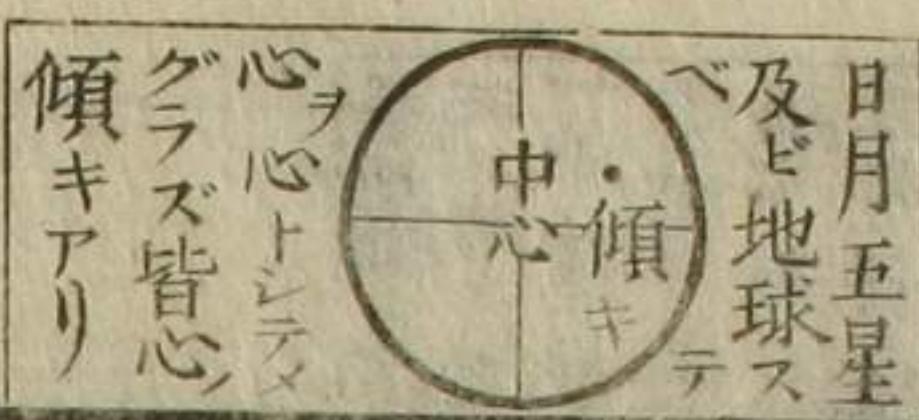
第三圖

五星及地球ノ旋ル環ニ各傾キノ差ヒアリ。其行環ヲ異ニス。ABC Dハ地球ノ行環ニレテ則チ黃道ト名ヅク。

水星ノ差ハ六度五十二分。金星ノ差ハ三度三十三分。火星ノ差ハ一度五十二分。木星ノ差ハ一度二十分。土星ノ差ハ二度三十分。右ニ云カ如ク五星ハ黃道ヲ行ト雖行環ニ傾アリ。故ニ食ヒタクノ如クニ交カウアリ。Bハ上昇セウノ

吾地球全
天ノ傾カク
一年運旋
スル環ラ黄
道ト名ヅ
環ニ差ヒ
環ヲ旋ル
五星黃道
雖少ニ定
ルナリ

立表測景
則半夏至
冬至六日
輪留ラ旋
不移カ如シ



交 D ハ 下降 グ ノ 交ナリ (黄道ト差ノ環ト名ク) 噉違
水星ト金星トヲ下ノ天ノ惑星ト呼ブ地球
ト日輪トノ間ニアル故ナリ水星日輪ヲ中
心トシテ運旋スル日數ハ七十日二十三時
六十分水星日輪ヲ隔ツフ三百八十七分是
地球ノ隔リヲ一千分トシテ算ス
水星日輪ヲ中心トシテ旋ルニ其心ノ差八十
分五星及ビ地球日輪皆傾キ旋ルド雖水星ノミ
樞軸ノ旋轉スルヲ知ルアタワズ是日輪ニ
近キガ故ナリ

金星日輪ヲ中心トシテ其周圍ヲ運旋スル
ノ二百二十四日十四時四十九分二十秒又
行環ノ隔リハ七百二十三分

第四圖

金星出中ノ中心ハ五分トス出中トハ地球
及ビ五星ノ旋ル行環ノ中心ハ A ナリ出中
中心ハ B ナリ其中心ノ差ヲ云フ
金星地球ノ如ク傾テ樞軸アリ地球、旋リテ
一晝夜ヲナス、如ク金星ノ旋轉、十四時七分
七秒樞軸ノ傾キハ十五度又二十度トス行

環ノ傾キハ三度二十三分ト云

第五圖

S^スハ日輪地球A^{アルヲ}最高^{サイカウ}ト云地球P^{アル}時ヲ最^{サイ}牟^ヒト名ヅク冬至ニハ地球Pニアリ

夏至ニハ地球Aニアリ

惑星西ヨ
然^ル正行^{ドス}
一昼夜^ニ一^ノ旋^{スルハ右}
惑星^ヲ地^球球^ノ人^仰キ^テ
惑星^ヲ總^{スル故ニ}
東^{ヨリ西}旋^{ルカ如レ}

第六圖

金星西ヨリ東ニ十二宮^{八十}宿列ヲ旋ルコレ

正行ト云

上ノ惑星日輪ニ合伏シ又對衡スルヲ地球ヨリ視^{ミル}片惑星日輪ト合伏シ地球日輪ト惑

星トノ中間ニアル時ハ對衡ト云ニ對衡ハ上ノ惑星ノミニアリテ惑星ヒロマリ三隅ト日輪ノ躔^{テノ}度ヨリ明^カナル隔^ハリ地球ノ上ヨリ視ニ日輪合伏スル時ハ惑星ヒロマリナレ然リト云凡^ト對衡スル時ハ地球半徑ナリ

第七圖

金星Q^{アベ}b^セC^デD^エト東ヨリ西ニ旋ルヲ退行トスE^{エフ}H^アQ^ト西ヨリ東ニ旋ルヲ正行トス金星E^エトQ^アノ所ニ至ル時ハ暫^{ハラ}ク動^カサルガ如レE^{エフ}Q^アヲ行ヲ正行トス退行ノ日數凡

四十日水星ノ退行ハ十八日
金星ハ上ノ合伏ヨリ下ノ合伏ニ旋リ至ル
時西方日輪没スル後現ル之ヲ霄ノ明星ト
呼又下ノ合伏ヨリ上ノ合伏ニ旋リ至ルノ時
東ノ方日輪昇ラントスル前現ル之ヲ朝ノ明
星トス

第八圖

日輪毎日東ニ出テ西ニ没シ地球一晝夜ヲ
ナスハ則地球ノ一旋轉スル故ナリ $S^{\text{ス}}$ 日輪
 $T^{\text{テ}}$ 地球 $T^{\text{テ}}$ 地球ノ行環 $R^{\text{エラ}}$ $Q^{\text{キワ}}$ ハ恆星天

地球 $T^{\text{テ}}$ アリ十ニ至ルノ時日輪 $Q^{\text{キワ}}$ ヨリ $R^{\text{エラ}}$ ノ恆
天ニ係リタル如レ地球ノ行環ハ金星ト火
星環ノ間ニアリ其一周ノ日數三百六十五
日四十九分是レ一年ナリ

第九圖

地球日輪ノ周圍ヲ一年ニ一周スル環ヲ黃
道ト名ヅク黃道ニ傾ク四十度半又地
球一晝夜ニ一旋轉シテ黃道ノ一度ヲ進ム
地球ノ軸ハ上ヲ北トシ下ヲ南トス

第十圖

第十圖

小ナル故ノ地球ハ
第九圖

二符合シ見ルベシ

初六宮	上六宮
六秋分	六春分
冬至	春秋分
分迄ヲ云ヘ	迄ヲ云ヘ
後六宮	春秋分
六宮	春秋分

S^スハ日輪 A^ア B^ベ C^セ D^デハ地球ノ行環此圖ハ天
上ヨリ見タル象ニシテ地球ノ行環ハ則黃
道是ニ十二宮ヲ配ス白羊天秤^{ビシ}ノ一線ハ晝
夜平等ニシテ巨蟹ト磨蝎^{カツカツ}ノ一線ヲ日輪留
ノ十字線ト名ク地球巨蟹ニ至ル時ヲ冬至
トス天秤ニ至ル時ヲ春分トス又第九ノ圖
地球ノe^エハ黃道ノ極軸 P^ペハ南北極ノ赤軸 I^イ
吾^カ日本ノ天頂^{タマツカヘ}トス

地球初ノ六宮ヲ旋轉スルヲ一百八十六日
十一時五十一分後ノ六宮ヲ旋轉スルヲ一

百七十八日十七時五十七分也七日十六時
五十四分ノ差アリ

第十一圖

外環ハ恆天十二宮中心 S^スハ日輪其外環ノ
A^ア B^ベ C^セ D^デハ地球一年一周旋^{イチ}スル行環地球 B^ベ
アル時日輪ハ H^エアリ白羊^{ヨウ}ノ初宮ニ當ル地
球 D^デアル時ハ日輪 F^{エフ}ノ天秤^{ビシ}アリ亦地球 D^デ
ヨリ A^ア B^ベ至^リテハ日輪南ノ六宮ニアリ 天秤
人馬磨竭^{ヒンマモクツク}塞瓶^{セイボウ}双魚^{ショウキ}地球ノ行環 檻圓^{エダイエン}ニシテ A^アニアリ
冬至トス日輪地球ニ近シ故ニ最卑ト名ヅク

輪ハ
遠キ者ハ
輪ハ
小ニ近キモ
大ニ近キモ
隔ルハ
以テ知ル

又近天ト云フ
冬至ニハ日輪大ナリ A^アハ地球ニシテ S^スハ日
輪ナリ 日輪ノ中徑^{ワタリ}三十二分十一度六四十七
秒一分六夏至ニハ日輪小シテ 地球ノ隔リハ
遠シ C^セハ地球 S^スハ日輪日輪ノ中徑^{ワタリ}三十一
分四十秒

日輪ハ地球行環ノ中央ニ非ズ 地球環ヨリ
日輪在位マデ、隔リ其中間ヲ一千分トシテ
全天ノ中心ニ至ルニ十七ナリ 故ニ大隔ハ一千零
十七ナリ 小隔ハ九百八十三

第十二圖

木星ハ一周十二年弱^{ドヤ}又四千三百三十二日
十二時木星日輪ヨリ其隔^{ホリ}遠キトホ五千二百
令一ナリ 地球ノ隔^{ホリ}一千分トシテ 木星ハ
五倍^ガ餘ナリ 又木星モ 地球ノ如ク 檻^{ヒツ}圓ノ環
ニシテ 其環ノ中心ニ差^ガアリ 出中スルヲ二百
五十木星樞軸ノ旋轉スルヲ 九日十九分也
彼木星ノ一晝夜ハ吾^カ地球九日十九分ナリ

第十三圖

土星木星ヨリ又大ナリ甚^{ハダ}遠シ 日輪ヲ隔^ツト

九千五百三十八出中ハ五百四十七土星ノ一周ハ二十九年半又一萬令七百五十九日七時土星遠クレテ樞軸ノ旋轉ヲ見ズ此星只環アリ圖ノ如レ

第十四圖

地球ヨリ日輪在位マデ隔^リ地球半徑ヲ以^テ算^{サシ}ス地球半徑一千七百零八里八分六厘零七五九一度三十里^ニシテ一里三十六町^{日本ノ法ニ}譯^ス大隔一千一百八十二倍
中隔一千一百四十倍

小隔一千一百零五倍
S^スハ日輪A^アハ地球B^ベハ天心ナリ

第十五圖

上ノ惑星ハ土木火ノ三星ナリ S^スハ日輪其外環ハ地球行環ナリ 地球Q^アアレバ惑星I^イ所在ト雖恆天ノA^ア現ルナリ 地球Q^アヨリ b^ベ至^ルノ所留滯スルヲ見ルC^セヨリ D^デノ合會所ヲ通り e^エ I^イニ至^{レバ} 恒天ノE^エ F^ヲノ所ニ見^{ヘテ}地球G^ゲニ至^ル所恒天ノG^ゲニ現レ又留滯スルヲ見ル是I^イノ惑星ハ恒天ノA^ア B^ベ C^セ D^デ E^エ F^ヲ G^ゲ

退行ト云
西ヨリ東
旋ル者
東ヨリ西
至ルヲ云
如レシ
西ニ至ル
譬言バ月

黄道ノ宮十三宿ハ右旋セシニシテ順行スルヲ
見ルコレヲ正行ト云フ

第十六圖

地球アリノ惑星ハ恆天ノG見テbc
dノ所ニ至テ對衡スギノ所ヲ過スギテefgニ至
レバ惑星ハGFEDCBAト宮十三宿ハ二十

ヲ逆行スルコレヲ退行ト云フ

火星ノ退行ハ凡ソ三ヶ月木星ノ退行ハ四
ケ月 土星ノ退行ハ四ヶ月半ナリ

火星ノ一周ハ六百八十六日二十三時二十

七分三十秒中心ノ隔リハ一千八百五十八
分出中ハ七百三十七行環ノ傾キハ四度三
十一分

第十七圖

月輪ハ地球ヲ心トシテ運旋スルナリ其行
環ノ隔リハ地球半徑ヲ以テ測ル時ハ
倍半一十万零三千三百八十六里零七五九
出中ハ三倍半五千九百八十一里令
二分七厘五毛月輪ハ黄道環ヲ截キリ通ホル所
凡五度半トス是ヲ交ト云此交一年ニ退行

スル運旋十九度十八分四十三秒ニシテ黄
道環ノ宮^{ミササギ}宿^{ミササギ}逆行^リノ一周行ハ二十七日
十四日ヲ經^リナリ月輪ノ一周行ハ二十七日
七時^{一晝夜}_ノニ四十三分^{一時六}_{トス}十十分トス
十四時トス

第十八圖

月輪一周ノ一月ハ二十七日七時四十三分
日時分ノ間ニ自己ノ行環^リ旋^ル又月輪合
會ノ一月ハ二十九日十二時四十三分三秒
此アイダニ新月ヨリ滿月ヲ經^リテ次ノ合會ノ
一月^ニワタル其アイダ凡二日五時一周ノ一

月ヨリ長シ圖ヲ見テ曉^{サト}ベレ^スハ日輪^ア_バ
地球ノ行環ナリ^{エマ}_{アル}Lハ地球^セ_ニアル時ノ月
輪ノ行環ノ中徑ナリ^{エマ}_{アル}M^モ_{アル}Lト同シク
月輪ノ中徑^ニジテ地球ハC^セ_ニアリ月輪ハL^{アル}_ニ
在テ日輪ト合會ナリ地球C^セ_ニヨリd^デ_ニ移^リ_{カタキ}
行ク故ニ^{エマ}_{アル}Lノ中徑ハ則m^{エマ}_イIノ中徑ノ傾
ナリ月輪I^イアリテハ日輪ト合會ニハ非ズ
月輪自己ノ一周ニシテ地球d^デ_ニアリテハg^ゲ_ニ
e^エノ一線^ヲ中徑トスI^イヨリe^エニ至^ル_ノアイダ合
會ノ一月ハ月輪自己ノ一周ヨリモ長シ月

輪合會ノ所ニ在テハ吾地球ヨリ見ルニ日輪
輝キニテ月光ナレ

第十九圖

Q^アT^テb^ベハ地球ノ行環ナリS^ス、日輪T^テハ地球
A^アC^セE^エG^ゲハ月輪ノ行環月輪A^アアレバ地球
日輪ト合會シ日輪ハ月ノ後^ニアリ之ニ依テ
日輪ハ月半圓ヲ照レ日輪ノ爲^タニ月^ハ見ズ
月輪E^エアル時ハ對衡ト云テ地球ハ月ト日
輪トノ中間^{アイダ}アリ地球ノ人月輪ノ日輪ニ正
對スル^ヲ見ル此ニ因テ滿月ト云又C^セトG^ゲヒ

所ニアリテハ是ヲ四象限ノ行ト名^ヅク月ノ
半圓ヲ照^{テラス}地上ノ人其半^{カタハ}望ム故ニ半輪
如レH^ハトB^ベト^ニ在テハ角ノ如レD^デF^エニ在テ
凸^{カタミ}視^ヘE^エニ至リテ滿月トナル故ニA^アヲ
新月ト云^朔A^アB^ベC^セD^デE^エヲ上弦ト云E^エF^エG^ゲ
H^ハA^アコレヲ下弦ト名^ヅク

第二十圖

土星木星ニ小星アリ吾地ノ月ト同シ小惑
星ト名^ヅク其小星本星ヲ心^{ミナカ}トシテ旋^ルト雖
其心ニ差^ヒアリ各隔^ハリヲ異ニス彼國ノ得歷

察可甫ト云望遠鏡ニ非レバ見ズ

木星ノ小四星中心ノ隔リ第一小星ハ木星半徑ヲ以テ五千六百令七倍第二小星ハ九千令十七倍第三小星ハ一万四千三百八十四倍第四小星ハ二万二千二百九十九半倍小星一周ノ日時分秒ハ木星第一小星其一周行ハ一日十八時二十七分三十四秒第二小星ハ三日十三時十三分四十三秒第三小星ハ七日三時四十二分三十六秒第四ノ小星ハ十六日十六時三十二分九秒

第二十一圖

B^ベC^セハ木星ノ行環A^アN^ヌL^ルM^ヌハ地球ノ行環S^スハ日輪D^デG^ゲF^フE^エH^ハハ小星ノ行環地球A^ア在テ小星ハE^エトD^デアリA^アE^エトA^アD^デ引^{スジ}系^シA^アノ地球ヨリ視^ルニ小星ハ本星^{大惑星}隔^ルト大ナリ小星ノ正行ハD^デヨリP^ペニ至^ルヒロマリト云P^ペハ上ノ合會E^エニ至^バA^アノ地球ヨリ視^ルニ西ヨリ東ニ至^ル順行ナリ又逆行E^エヨリ下ノ合會H^ハヨリD^デニ至^リA^アノ地球ヨリ視^バ東ヨリ西ニ至^ル逆行ナリ

土星ニ小五星本星ヲ隔ツフ第一小星ハ本
星ノ半徑ヲ以テ一百九十三第二小星ハ二
百四十七第三小星ハ三百四十七第四小星
八百第五小星ハ二千三百四十五ナリ
土星ノ小星一周ノ日時分ハ第一小星一日
一時十八分二十七秒第二小星ハ二日十七
時四十一分二十二秒第三小星ハ四日十二
時二十五分十二秒第四小星ハ十五日二十
二時四十一分十四秒第五小星ハ七十九日
七時四十八分ナリ

土木二星ノ小星ハ本星ヲ心トレテ旋ルガ
故ニ本星ニ係リテハ食ノ如レ

第二十二圖

IAKハ地球ヘTハ地球ノ地心AB線ヲ
視地平トスAヨリMノ月輪ハSノ日輪ト
二ナガラAノ地平ヨリBノ所ニ見ルナリ
然レ压地球ノ中心Tヨリ見バ日輪Cアリ
月D見ヘテ則BCハ日輪ノ視差ナリBD
月ノ視差ナリ惑星Eアリ地球ノ中心Tヨリ
視牛ハ恆天ノFニアリAノ地平ヨリハG

現アラジテ則視差ナリ地球ノ上天頂ニ升イボリテハ
視差漸漸減ゼンハゲジテHZニ視テハ視差ナシ

第二十三圖

Aハ地球ノ地平Hハ天頂Tハ地球中心B
Pハ霧環霧環トハ地氣トフ者 HFKハ恆星天
AFハ視地平TKハ正地平ナリ地平ヨリ
恆天ヲ望ムニGハEニ視ユルナリ是ヲ霧環

ノ視差ト云

日輪視差ノ算

日輪無度ニレテ三十四分正度ヨリ高レ一

度ニレテ二十六分正度ヨリ高レ二度ニジテ
二十分正度ヨリ高レ四度ニレテ五十分正
度ヨリ高レ七度ニシテ三十分正度ヨリ高レ
十度ニジテ十分正度ヨリ高レ十六度ニジテ七
分正度ヨリ高レ二十三度ニジテ三分正度ヨ
リ高レ三十二度ニジテ一分正度ヨリ高レ

恆星ノ視差

恆星無度ニレテ三十分正度ヨリ高レ一度
ニシテ二十三分正度ヨリ高レ二度ニシテ
十五分正度ヨリ高レ四度ニシテ十一分正

度ヨリ高レ七度ニシテ八分正度ヨリ高シ
十一度ニシテ五分正度ヨリ高レ十五度ニ
シテ三分正度ヨリ高シ
視學ハ其術洋中大舶ヲ駕ス航海ノ要用ニ
レテ春夏秋冬ニ視差ノ多少アリ容易ノ學ニ
非ズ只萬分ノ一言ヲ略説スルノミ

第二十四圖 月蝕一ノ圖

H_{ハゲ}ノ線ハ月ノ道ナリ F_{ユフ} G_ゲハ黃道環 I_イハ
月交ニ近シ K_カハ二三分ノ蝕_{レヨク}ナリ M_{エマ} L_{アル} O_ヲハ
皆既ノ象ニシテ M_{エマ} ノ方ヨリ蝕シ始_{ジマ} リ L_{アル} ニテ

甚レク O_ヲニテ終ル月地球ノ影ノ正中_カト通
リテ蝕スルハ皆既ナリ E_エニ缺始メテ N_エニ
甚レク Q_{キワ}ニテ終ル

月蝕二ノ圖 S_スハ日輪 T_テハ地球 E_エ月輪 B_ベ
霧環 A_アハ日輪ノ餘光 G_ゲ F_{エフ}ハ餘炎霧環ニ徹
通シテ光ノ終尖_{トガ}リテ H_ハニ至ル故ニ皆既ト
雖全ク光ヲ失ハズ
日蝕三ノ圖 S_スハ日輪 m_マハ月輪 T_テハ地球月
日輪ヲ蔽_フテ月ノ影地ニ下ル d_{デセ}C_カハ全クノ
皆既ニシテ b_ビ Q_{キワ}モ I_{エマ} e_エモ月影全ク地ニ下

スト雖蝕ヲ見ルナリ

四ノ圖月輪遠天ニ係タル時月全ク遮蔽ズ
月ハ日輪ノ光ヲ餘^{アマ}斯是ヲ指輪ノ蝕ト云

五ノ圖月輪近天アリ日輪ハ大之月ハ小之
然^ハ月地球ニ近レ故ニ日光ヲ蔽フ是ヲ全
蝕ト云月地球ヲ心トシテ旋ルト雖其環^イ
圓^{ビツ}故ニ地球隔ルト遠キト近キトアリ是ヲ
遠天近天ト云

第二十五圖

S^スハ日輪 A^ア B^バハ霧環 T^テハ地球 C^セハ地平

地上ノ人霧環ノ中アツテ日月ノ出沒スル
時ハ大ナリ午時南中シテ、小ナリ霧環ノ厚
キト薄キト故ナリ D^デハ日月地平ニアリテ
霧環厚シ E^エハ天頂ニシテ霧環薄シ又曰ク
日月出沒スル時光明ナシ日ヲ視テ眩^{ケマタ}ズ霧
環ハ是地氣ニシテ天氣地ヲ照シ地氣蒸シ
昇^{ボウ}テ霧環ノ中皆塵埃^{ジシアイ}ノ氣是ヲ譬^{タト}フルニ水
中ノ土埃^{アカ}アイ積^{ツン}チホヨリ^{ヨリ}霧環ノ中ノ土埃^{アカ}アイ積^{ツン}デ濁ルガ如レ天ノ朦氣^{モカキ}
之ヲ野馬ノ游氣ト云

第二十六圖

T_テハ地球A_アハ霧環B_ベハ地上人居立スル處
C_セハ冷際E_エハ熱天トス地球ノ旋轉スルノ
霧環ト共ニ斯地氣ノ溫ト熱天トノ界僅_{ワツ}_ニ
冷ヲナス所謂冷際是ナリタルモメーテルヲ
以テ證トス圖ノ如レ

第二十七圖

霧環ハ地氣ニシテ是ヲ淡水ト云人ハ其淡
水ノ中ニ起居ス魚ノ濃水ノ中ニ游ガ如レ

第二十八圖

濃水ヲ以テ淡水ニ譬フA_アハ濃水ニシテB_ベハ

重キ大石ナリ魚水中ニ游ブ魚ハ人ニ譬フ
圖ヲ見テ知ルベレ

第二十八圖

木星ハ吾地球ノ十二年ヲ以テ木星ノ一年ト
ス三年ヲ以テ一季トス望遠鏡ヲ以テ觀ルニ
星面淡墨色三帶ノ紋アリ月中ニ紋アルカ如レ
土星ハ吾地球ノ二十九年半ヲ以テ土星ノ一
年トス七年百日餘ヲ以テ一季トス星ノ圍
繞ニ環アリ其環光テ本星ノ如レ

第二十九圖

流星俗ニ
云ヨダイ星
星ニテアラズ
時光リヲ
飛墜ル
ナス黒点
即是ヘ

日輪ノ中黒點ヲ觀ル東方ヨリ入テ東方ニ
出ツ此物日邊ノ物ニ非ズ霧環ノ中ノ土氣
冷際ノ上熱際ノ界ニ係リテ塊^{ガバ}ヲナス者也
即チ是ヘ
日輪ハ遠レ此物ハ地ニ甚近シ^{タマリ}レ冬春尤
多シ

第三十圖

虹^{ヒジ}ハ微薄ノ雨ニ日輪映射^{エレヒヤ}シテ五彩ヲナス
朝^{アレタ}ニハ西ニ雨^{アハル}ル時虹ヲナス晚^レニハ東ニ雨
フル時虹ヲナス圖ヲ見テ其證^{ヤウ}ヲ知ルベシ日
輪西ニアル時東ニ向テ水ヲ噴^{ハカ}バ則チ虹ノ
象^{カタ}ヲナス

又曰草木ノ花五彩ヲナス皆水ト火ナリ
譬^{シテ}葉多々綠^{リヨク}色ヲナス天^ア青色地^ア黃泉
其色相混ズレバ則チ綠色トナル其葉ノ
將^{マサ}ニ枯^{カル}ントスル其色黃ナリ是青氣ハ天ニ
去リ黃色ハ地ニ歸^キスルナリ草木ノニ^ニ非ズ
人及ビ萬物皆同理

文化五年戊辰

十一月冬至日

東都春波樓藏

示蒙

一江集先生著天球の圖をひ地麻の
圓洞板と角刻にて世にあとなく然ニ漏くゆ
まうきよと晚そとそと未だ天文の學世を知る
もれ鮮一江と天文地轉儀と製作して
天文圖解とあると古づく天理と云者あ
りといふ旨往古天文学て霊理とあるぞ地
轉と云へ大地が動くを動ひて天へ應てうごき
めくと然ニ地が推動くと云ひ天理ニふと用
ひふる人多く思ひ地震の底に伏す
るを有無とあるを無大地ハ球とてあり玉の

形ニシテ物もなき日輪もなき虚空の中ニカミテ
あり又地球のめぐるにあとみて霧環と名づく
をれあり地より升氣を辭言バ王子の中の黄子
トモトモ地脉ニシテ元モ其外れ白き處と霧環
ヨリノタメ又其外の皮と冷際とて冷際より
外ハ熱天とて日輪の陽氣をもニシテ地の水氣
而ニシテぼうぶる天をう兩も風も又暑者も寒者も皆
ゆうれりて海冷際までニカミテ大地一昼夜
一旋轉モクル霧環と共ニ旋る之見めぐる處と熱
天とれ黙と冷際とて恒ニ冷之取名とも其霧環
と共ニ旋る船大舶に乗て西行す人ぢハ而ニ

旋うとい思ひぬうえうり人其ハ微少ニシテ城ニ
シトテモ赤大きる所のるを毎日のよろんと人且て知
一毎日輪ハ旋う動シテ斯大地が南と北に向西の
ごとく珍軸ありて一昼夜ニ一旋うて日ニ向ふ所
昏どな一日ニ背く姿の後となり一日ニ天の反
ひみを至りうみを至まに日輪のまうちうを
くらりと廻る至一年となる又恒星と云つて
五方をも現れて有る名とモ一千八宿乃と諸く
の衆星のるを之ハ何ほど遠き事也量
知うべからずして能ぬ説や五星これ私有者而
ある必日輪の私有者と云說えま古事記

うえを又形と爲んせす 徒古より氏と云星
かくのれ一心と云星。無くちて日輪の光
とうて森く者と思ひき。今迄の天文の書
云歎恒天の星も。も一日一夜よ旋ると説あ
西洋の説と知る。則ち歎窮理と以考かき。殊
に愚なる。そ天がどれ様に疾く旋ても五
百年も千年もか。是高遠なる。すと
志ぬれり

一地輪日輪と云へ火の元なり。地と云ハ水の元なり。又
星は地歎と同物にて。具中。人皆。乃ひ禽獸草
木。故ゆめ。又月輪は地球。ようハ小に。地近

くして地脉の旋る勢にて其勢とからて。旋る
を。それも地の小なる者え。太星。五つあり。木
星。四つあり。何をも。吾地の月也。

一地輪儀と以天と。謂ふ。日輪ハ天の中心。而
あきど地脉の人之と。視る所。遙の天。係りて
石ころ。又日輪の。ん先と立夏を。四月の
節立夏の。ん。即ち日輪。胃宿の。度
も。あり。又立夏より三日。と。と。と。
ク。日輪の。ん先と三度の。め。と。され
ば。昇。近。

△地 砖の。ん先。ハ。日。午。の。人の。立。居。た。と。と。被

タクル先と日輪の方へ向ケテスル時ノ即年時日
中をう木星ハ壁の五度火星ハ軸の三度
金星ハ畢^{ヒツ}の九度水星ハ婬^{ヨリ}の十一度各々
タクル先と其方へ向ケテスルに召されベ星又
つモ又△地球のタクル先と替^シレバ處^ハ西^ヒシズ
時^ハ柳宿^{ヒヅク}南中^{ミナミ}冲^{カミ}東^ヒシズ遙^ハギリ^シ
金星^ハ西^シ方^ハかひひきて見又△地球のタクル
先と夜^{ヨル}子^ノの處^ハまへ^一スル所^ハ氐宿^{ヒツク}南中^{ミナミ}を
火星^ハ西^シ方^ハもう土星南中^{ミナミ}を又△地球のナ
ムンさきと明方旦^{タシ}の處^ハまへ^一スル所^ハ女虛南
中^{ミナミ}にて土星西^シ落^ハ木星東^ヒニテスル水星

日の出^{イダ}んとさう始^{ハスコ}メ^トチラ^トとさう之^ハかく
のごとく地轉儀^ト以南^ト向ひ方^{アヘ}て今^セ
見る時^ハ二十八宿^{ヒュウ}并^ニ五星^{ヒトコロ}也^ハ一度^トと呼
然^{ドモ}五星^{ヒトコロ}也^ハ墮^ハ年^ト達^ハ又^ハ星^{レキ}也^ハ年^ト達^ハ
ト^ハ之^ハ一平八宿^ハ年^ト同^一處^ニあり
一月輪^ハ地^ス赤^ト近^クと旋^ハ左^ト辛^リニ^ミシ^ハモ^トと
一周^モ之^ハ地^ト口^トある^ハ有^ハ改正^ハ國^ト以南^ト方^ニ
向^ヒ地^ト移^ハ儀^トそぐ^ハり^ト日^ト輪^ハタクル先^トと^ハ有^ハ
の中^ニ大暑^をも^ハ太暑^者の處^ハ當^ハて又△地球のタクル先

と婚れ處へ向け則猶昏南の方角元氏一房
心と望む又乃不ん方も初昏ニ同ノ所える
きど一度ツ西の才アリテハ自中秋分の比
ハ角元氏房ハ西北方カミヒキ心尾貸トキ
南とあり女虛危東ニスル然とも負タ角ハ皆
至とがくミスルビトナムト秋のホトトナムニ
ハ戸を開て空をえぞ力で日の射方、或ハ夜半
毎月一晩寝モヒスルハ扇とヒコロビ知ル
ナリ又テ夏明方半モ玉とスルベニキハ扇此
ま方半スルナリ

一海平八宿を知る一年二天が一周すると知り

乃ちるよりて二年ハ宿ハ諸々の衆星の中ニある所
すまきうちわくにて而ニ知る者多一ノ日南中
もる早まら未年の序又同ノ处ニあり且ハ中五
星を土木火の三星クニ十八宿の中ニ至り也
動するもあう事ニ西れ方ノ移く遡むしるも
あり又东の方へ行るもあう會見まゝ西れ方ニ低く
あり室後云々と高くせんづてす年たゞや
現れ又わんくと下りて西ニ入る東の方ニ隕氣も
内ドよりえ初ハ明方東ニスルてみくと升アリテ
夜の明ざすニ隕氣水星、日輪ニ至ニ近ヘ未だ
日比出る前視ヘて夜日生てスヘキ又日比入と

スニテ日と共ニ入る

一二十八宿セキドウハ赤道セキドウの筋スジニ配列ハイレツ一トアリ星といえども順列ヨコせど尾宿ヒユクハ南の方へ低ヒク一女と云星ハ小星セイナリ翼ヨクハ小星かクくありて又タチヘゴカタマリ改正の圖カタマリと川南カミナミに向ひ天スカイ引金カギを見シカウ候ハサウ急タチち天スカイ寶ハスミフホウ之見宿星セイの中ニ格別カタマリ輝キヤウミテえらる星セイハ必ず太木火タモヒの二星ナリふと見て祝シカウ一正行退行カタマリとて西カミナミの方カミナミへ疾キヤウく近アツムむ有アリ又タチ东タチの方タチへ行ハシマリす又タチ順逆カタマリクカタマリして其壘イドコロと異コトニき日ヒ之ノ地ジの轉居カタマリラムれぬ

一風雨雷電地震カミナミ其余ヨの天地タタキのうち異變ハレのうが天スカイ麻マ圖說ツヅクニあり

春波樓藏版目錄

銅版地球圖ブンバン并略說一冊 箱入

出來

同 天球圖ブンバン并和蘭天說二冊 箱入

同

同 風景画ブンケイガ 日本及ヒ和蘭ハラノ圖十品
彩色入り并視眼鏡

同

同 濱海圖ブンハイ并和蘭通舶二冊 箱入

同

地轉儀之圖ブンバン并刻白爾天文解二冊 箱入

同

西遊旅談五冊江漢先生長崎カミナミ遊歴ハシマリシテ過ル處及ヒ支那
和蘭珍話并鯨談画圖ハラジンハク并鯨談画圖ハラジンハクヲナシテ諭ス

同

和蘭奇巧天文測量ノ器銅版ノ彫様吹スキ様ス万力滑車水車風車エキテルリユクトボンブステ彼國工夫セル奇器ス造リ方皆画圖ツヅクヲ以テ示ス

近刻

